授業科目名・形態	心理学　　講義	必修・選択の別	選　択
担当者氏名	成　田　　猛	開講期	１年前期	単位数	２

※福祉学科必修

【授業の主題と目標】

心理学的に把握されている人間の姿と技法を紹介する。人間の心理学的理解では、人間の知能・思考、パーソナリテイ、感情などについてふれる。人間の成長・発達では、乳児期、幼児期、児童期などについてふれ、成人期、老年期の人々との質的相違を説明する。生活の場と心理的援助では、ストレスをとりあげる。人間理解のための心理的援助技法では、投影法、精神分析技法、カウンセリング技法等を紹介する。これらにより、受講者が心理学的な視点から人間を援助できるようになることを目標にする。

【授業計画・内容】

第　１　回　学習・記憶
第　２　回　知覚
第　３　回　感情と動機づけ
第　４　回　知能・思考
第　５　回　パーソナリテイ
第　６　回　適応・不適応
第　７　回　社会的行動
第　８　回　人間の成長・発達（１）
第　９　回　人間の成長・発達（２）
第　10　回　障害者・高齢者の心理
第　11　回　ストレス
第　12　回　検査・測定（１）
第　13　回　検査・測定（２）
第　14　回　心理療法（１）
第　15　回　心理療法（２）

【授業実施方法】

基本は講義形式。必要に応じてビデオ等を使用。

【教科書等】

二宮克美他著「ベーシック心理学」医歯薬出版　2008。なお、教科書に記載されていない事項については別資料で配付。

【参考文献】

必要に応じて紹介。

【成績評価方法】

出席および試験による総合評価。

【学生へのメッセージ】

心理学は抽象的な学問といわれる。講義では日常の生の人間の姿が浮き彫りになるように説明する。教科書の記載事項は、我々の日常生活で体験される出来事と照合されながら解説される。これにより、心理学が身近になることを期待したい。

授業科目名・形態	社会学　　講義	必修・選択の別	選　択
担当者氏名	石　川　雅　典	開講期	１年前期	単位数	２

※福祉学科必修

【授業の主題と目標】

「家族」、「情報」、「国家」のように、日常的に使われている言葉の正確な理解を踏まえながら、人間関係や集団の視点で様々な社会事象を解し、個人的な経験と社会全体の仕組みや変化をつき合わせる考え方を豊かにすること。

【授業計画・内容】

第　１　回　日常生活と社会学
第　２　回　社会的存在になること
第　３　回　家族の構造と機能
第　４　回　家族の変動
第　５　回　人口変動と農村・都市
第　６　回　コミュニティと地域再生
第　７　回　暮らしと生活の変化
第　８　回　産業組織と人間問題
第　９　回　社会の構成
第　10　回　社会の変動
第　11　回　社会問題のとらえ方
第　12　回　社会調査の世界
第　13　回　社会学のあゆみ１
第　14　回　社会学のあゆみ２
第　15　回　現代社会と社会学

【授業実施方法】

講義

【教科書等】

久門道利ほか2005「スタートライン社会学」弘文堂

【参考文献】

【成績評価方法】

講義中の小テストと前期定期試験による総合評価

【学生へのメッセージ】

ニュースや各種調査などで世の中の動きをつかもう

授業科目名・形態	生命科学　講義	必修・選択の別	選　択
担当者氏名	奥　野　智　旦	開講期	１年前期	単位数	２

【授業の主題と目標】

生命科学とは生物の特徴である生命を、物質的（分子的）根拠を示しながらそのヒトおよびその他の生物の生命システムの解説・解明についての分野である。この授業では、ヒトとの関連を重視して生物に共通する細胞の生理・構造に関わる主だった物質（タンパク・核酸等）、遺伝システム、生命を造り維持するゲノム、ヒトの生理（発生・成長・老化・再生・脳構造・がん・免疫）、生命科学技術のヒトへの応用と社会倫理、ヒトと他生物の共存・地球環境の保全等を取り上げて概説する。

【授業計画・内容】

以下は各回の講義で取り上げる対象主題である

第１回　生命科学の誕生、生物とは、生物の進化と系統、ヒトの起源と系統
第２回　細胞・生物の大きさ、ヒトの体の階層構造、細胞を構成する分子
第３回　細胞内の機能分布（細胞小器官）
第４回　遺伝、メンデル遺伝学、ＤＮＡ二重ラセン構造の発見、遺伝子の複製、親子の遺伝子
第５回　遺伝情報の転写・翻訳とＤＮＡ・ＲＮＡ・タンパク、ゲノムと遺伝子、ヒトゲノム
第６回　遺伝子の働き、遺伝子ＤＮＡの構造と制御・多様性
第７回　ヒトの生理、発生と老化、生殖細胞・クローン動物、幹細胞・再生医療
第８回　ヒトの脳構造、神経細胞、神経刺激伝達
第９回　細胞のがん化、発がんの要因、がん遺伝子、細胞のアポトーシス
第10回　食事とは、消化・吸収、食べたＤＮＡ・タンパク等はどうなるか
第11回　ヒトの代謝とエネルギー産生
第12回　感染と防御、微生物と感染、免疫、免疫応答
第13回　遺伝子工学（技術）、遺伝子組み換えの歴史と発展
第14回　遺伝子組み換えによる物質生産、組み換え動植物、クローン技術、幹・iPS細胞
第15回　ヒトと環境、生物多様性と地球環境保全

【授業実施方法】

講義形式

【教科書等】

文系のための生命科学(2008年、東京大学生命科学教科書編集委員会編、羊土社、2,800円）

【参考文献】

基礎分子生物学第３版（2007年、田村・村松著、東北化学同人、2800円）

【成績評価方法】

出席、簡単なテスト、期末試験

【学生へのメッセージ】

ヒト（自分）のことですから一度教科書を読んでください

授業科目名・形態	環境と人間生活　講義	必修・選択の別	選　択
担当者氏名	後　藤　忠　志	開講期	１年前期	単位数	２

※福祉学科２年前期選択

【授業の主題と目標】

天気などの気候環境、山や平野などの地形環境、森林や動物などの生物環境、河川・湖沼などの水環境等、主に自然環境に関する基礎知識をまず学ぶ。そして、これらが人間生活にどのような恵みを与え、どのような災いをもたらしているのかを伝えたい。必要な予備知識は特にないが、授業終了時には、人間と自然が共生する必要性とそのノウハウを理解できていることを目標とする。

【授業計画・内容】

第　1　回　ガイダンス、授業案内
第　2　回　気候概要、世界の気候
第　3　回　日本の気候（その二重性）
第　4　回　気候と健康（意外！密接関係、気候と心身）
第　5　回　気候と衣食住（暮らしと天気）
第　6　回　山と人間（火山の恵みと災い）
第　7　回　台地・丘陵地と人間（土地改変最大の犠牲者）
第　8　回　平野と人間（自然豊かな本来の湿地）
第　9　回　地下水と人間（湧き水だけではない地下の水）
第　10　回　土壌と人間（自然の源、土とミミズ）
第　11　回　森林と人間（生活を守る森）
第　12　回　河川と人間（まさに滝！日本の川）
第　13　回　湖沼と人間（汚れやすい湖）
第　14　回　海岸と人間（島国日本の危機、失われ行く海岸）
第　15　回　海と人間（海洋国家日本、その国民として）

【授業実施方法】

基本的には講義形式で行う。まれに、近隣での学外授業を実施する場合もある。

【教科書等】

特に指定はしない。自作資料や視聴覚教材等を用いて授業を進める。

【参考文献】

適宜、授業中に紹介する。出席状況や普段からの受講態度、前期定期試験などにより総合的に評価する。

【成績評価方法】

出席状況や普段からの受講態度、前期定期試験などにより総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

ついでの際でも良いので、履修者には授業で取り上げた内容を身の回りの実際の環境に当てはめて考えたり、観察してみることを勧める。このことからより確実に、より自然に理解できるようになる。

授業科目名・形態	秋田の風土と生活　講義	必修・選択の別	選　択
担当者氏名	後　藤　忠　志	開講期	１年前期	単位数	２

※福祉学科２年前期選択

【授業の主題と目標】

地域の特徴や風土、生活の特性を知ることは、対人理解が不可欠な看護・福祉の分野にとって、その背景をつかむ重要な視点となる。そこで、本授業では地元・秋田県を事例に、地域の特徴や風土、生活の特性を知ることを目標とする。

【授業計画・内容】

第　１　回　ガイダンス、授業案内
第　２　回　秋田県の位置・領域・概要
第　３　回　秋田県の歴史
第　４　回　秋田県の自然１（気候）
第　５　回　秋田県の自然２（地形・地質）
第　６　回　秋田県の自然３（植物）
第　７　回　秋田県の自然４（動物）
第　８　回　秋田県の人口
第　９　回　秋田県の産業１（第１次産業）
第　10　回　秋田県の産業２（第２、３次産業）
第　11　回　秋田県の風土・文化１（年中行事と生活）
第　12　回　秋田県の風土・文化２（食文化）
第　13　回　秋田県の風土・文化３（疾病）
第　14　回　秋田県の風土・文化４（方言）
第　15　回　秋田県の風土・文化５（芸術）

【授業実施方法】

基本的には講義形式で行う。まれに、近隣での学外授業を実施する場合もある。

【教科書等】

特に指定はしない。自作資料や視聴覚教材等を用いて授業を進める。

【参考文献】

適宜、授業中に紹介する。出席状況や普段からの受講態度、前期定期試験などにより総合的に評価する。

【成績評価方法】

出席状況や普段からの受講態度、前期定期試験などにより総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

ついでの際でも良いので、履修者には授業で取り上げた内容を、大館を含む秋田県内の身近な状況に当てはめて考えたり、観察してみることを勧める。このことからより確実に、より自然に理解できるようになる。また、テレビやインターネット、新聞・雑誌などで秋田県の記事に留意もしてほしい。

授業科目名・形態	家族看護学　講義	必修・選択の別	選　択
担当者氏名	池　田　信　子	開講期	３年前期	単位数	２

【授業の主題と目標】

社会生活の変遷から家族の背景や機能・概念の学習を通し、現在の家族ケアの問題や課題を理解し、家族のセルフケア機能を高める援助のあり方について習得する。

【授業計画・内容】

（理論）

第１・２回　家族看護とは何か、家族ケアの歴史と背景、在宅ケアおよび訪問看護の概要と諸制度

第３・４回　家族看護過程

第５・６回　家族看護における看護者の役割と援助姿勢
他職種との連携及びケアマネジメント

（実践）

第７・８回　脳卒中後遺症を持つ高齢者に対する家族援助
リハビリティーションにおける家族看護
乳幼児及び障害児を持つ家族への援助
救急医療・集中治療現場における家族看護

第９・10回　認知症患者の家族援助

第11・12回　難病患者とともに生きる家族への看護（難病対策）
グループワーク（難病患者の事例検討）

第13・14回　終末期患者の家族看護（緩和ケアを含む）、遺族に対するケア

第　15　回　まとめ

【授業実施方法】

講義、演習、グループワーク

【教科書等】

教科書：「家族看護学（理論と実践）」（日本看護協会出版会）

【参考文献】

「家族看護」日本看護協会出版会（2003～2006）

【成績評価方法】

出席状況、レポート、前期定期試験により評価する

【学生へのメッセージ】

家族学はすべての看護に共通するものである。家族とは何か、家族ケアとは何かを多くの方と話し合い、様々な家族を意識して観察・理解する力をつけることが重要である。

授業科目名・形態	発達と老化の理解　　講義	必修・選択の別	選　択
担当者氏名	成　田　　猛	開講期	１年前期	単位数	２

【授業の主題と目標】

老年期（高齢期）におこってくる老化は避けることはできない。人の老化は、身体機能にどのようにあらわれるであろうか？　人はその老化をどのように受け止めるであろうか？　これらは日常生活にどのような影響をもたらすのであろうか？　また、老年期にはどのような精神障害が特徴となるのであろうか？　本講義では、介護の現場で対象となる高齢者の心身の特徴、心理、疾患等を知ることで、高齢者と適切な関係を維持しながら、高齢者ケアができる介護福祉士になることを学習の目標とする。

【授業計画・内容】

第　１　回　老年期（高齢期）と発達課題
第　２　回　脳神経系の加齢変化
第　３　回　日常生活への影響
第　４　回　思考と知能の特徴
第　５　回　感情と欲求の特徴
第　６　回　感覚・知覚の特徴
第　７　回　記憶・注意の特徴
第　８　回　自我とパーソナリテイの特徴
第　９　回　道徳性と社会性の特徴
第　10　回　退職・離別とその受け止め方
第　11　回　死別・病気とその受け止め方
第　12　回　代表的な精神障害（１）
第　13　回　代表的な精神障害（２）
第　14　回　心理療法的接近
第　15　回　保健医療職との連携

【授業実施方法】

基本は講義形式。必要に応じてビデオ等を使用。

【教科書等】

福屋武人編著「老年期の心理学」学術図書出版、2006

【参考文献】

必要に応じて紹介。

【成績評価方法】

出席および試験による総合評価。

【学生へのメッセージ】

高齢者の総人口に占める割合は年々増加している。介護の問題は社会的に対応すべき課題になっている。受講者は日頃から新聞等の高齢者関連の記事に目を通しておいて欲しい。高齢者に興味をもつことが学習を始める第一歩となる。